

令和 2 年 7 月 14 日現在

機関番号：34507

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K20737

研究課題名(和文) 看護師の省察的実践プロセスにおける様相の特徴 - Schonの省察的実践論をとおして

研究課題名(英文) The Characteristics of Aspects in the Reflective Practice Process of Nurses:
Through Schon's Reflective Practice Theory

研究代表者

岡本 朋子 (Okamoto, Tomoko)

甲南女子大学・看護リハビリテーション学部・講師

研究者番号：60512340

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,300,000円

研究成果の概要(和文)：看護師は、今までの言動や実践した看護に対する相手の反応から、常に患者の意思を押し量りつつ実践していることが明らかとなった。看護師の実践には、自らの感覚を手がかりに試行錯誤しつつ手立てを見出し患者の状況を捉え直すことで、目には見えない患者の意思を尊重するという特徴があるとわかった。

また、看護実践においては、看護師が自らの感覚を受け止めることで行為が生まれ、その行為によって知覚した事象に立ち返りながらまた次の行為が見出されることも明らかとなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

看護師が自らの感覚や思考をもとに、どのように行為しつつ思考しながら実践していたのかを明らかにすることで、これまで明らかにされていない看護師の感覚を用いた看護実践について、記述を通して明らかになることに、本研究の意義を見出せる。

さらには、看護実践の実際が明らかになることで、看護師の実践に対する意味づけや評価も明らかとなり、看護師が実践力の向上を目指し、専門職として学び続けていくための手がかりが得られるため、今後の臨床現場における継続教育を考える上での基礎資料となる。

研究成果の概要(英文)：Based on the behavior of others and the reactions of other people to the practice of nursing, it became clear that nurses are always practicing while assessing the will of the patient. It was found that the practice of the nurse has the characteristic of respecting the invisible patient's intention by finding out the means and grasping the patient's situation while making trial and error using his own sense as a clue.

In nursing practice, it became clear that an action was born when a nurse received his sense, and the next action was found while returning to the phenomenon perceived by the action.

研究分野：基礎看護学

キーワード：看護実践 看護師 省察的実践 行為 思考 感覚

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

これまでに、看護師の実際の行為とその時の思考を把握しながら、ショーンの省察的実践論をてがかりに、看護師の省察的実践の特徴を明らかにしてきた。その結果、看護師は、1) 予想外の出来事を契機に普段の援助を意識することで、自らの患者の見方やケアを自覚し見直すことで患者への理解を深めること、2) 患者への気がかりを持ち続けることによって、患者から発せられたサインを見逃すことなく援助の契機としていることがわかった。また看護師は、3) 自分の事象や患者の捉え方を転換することによって、援助をパターン化せずに実践方法をより豊かなものへと変化させており、自らの実践を発展させ続けていること、4) 実践の中核にある過去の経験を現在の援助に生かすことでケアの意味を捉え直し、自らの関心ではなく相手の立場に立った患者主体の看護を実践していること、以上の4点が明らかとなった。

しかし、先行研究では、看護師の省察的実践において、患者を目の前にした時点から、看護師が感じたり考えたりしていることが、その後の実践にどのように生かされているのかは明らかになっていない。看護師の実践は患者にかかわる時点から開始されると捉えられがちであるが、実際の看護実践は、看護師が患者とその場を共有した時からすでに始まっているといえる。そのため、看護師が何を見たのか、何に気づいたのかということをはっきりとしない限り、看護師がどのように行為しつつ思考しながら実践しているのかを明らかにすることはできない。よって、本研究では、ショーンの述べる省察的実践論をてがかりに、看護師の行為と思考、感覚について明らかにする。

2. 研究の目的

本研究の目的は、専門職である看護師が、どのように行為しつつ思考しながら実践していたのか、看護師の省察的実践プロセスの様相の特徴を、Schon, D.の省察的実践論を手がかりに明らかにする。実践現場において、看護師が患者と場を共有した時点から何を感じたり考えたりしていたのか、そこでの感覚や考えがその後の看護実践にどのように生かされているのかを明らかにする。

3. 研究の方法

本研究では、臨床現場において看護師がどのように行為しつつ思考しているのか、看護師の省察的実践における様相の特徴を明らかにすることを目的としている。そのためには、患者への援助やそこでの相互作用の中で、看護師がどのように行為を変化させたり、何を感じたり考えたりしながら実践しているのかを知る必要がある。よって、研究方法は以下の通りに実施した。

- 1) 研究デザイン：質的記述的研究デザイン。
- 2) 研究参加者：病院で3年以上の看護実践を経験しており、現在の所属病棟での看護実践を1年以上経験している看護師3名。
- 3) データ収集方法：看護師が行為している実際を知るための方法として、実践現場に身を置くことで実際の状況を知ることができる参与観察と、その時の看護師の思考を知るための方法として半構成的インタビューを実施した。インタビューでは、患者に行った援助と一緒に辿りながら、看護師が行為していた時の思考や感情を中心に語ってもらった。調査期間は研究参加者の負担を考慮し、参与観察は1名の看護師あたり1週間程度、インタビューは1回につき30~45分程度とし、勤務の都合に合わせて日程調整を行った。
- 4) 分析方法：(1) 実践の文脈に注意し、参与観察メモやフィールドノート、逐語録データを何度も読み、親しんでいく作業によってデータによくなじむ(小田, 2010)ようにしながら、看護師の行為と思考をふまえ、省察的実践と捉えられる場面を抽出した。(2) 抽出した場面において、看護師がどのように行為しつつ思考していたのか、看護師の省察的実践における様相の特徴を見出した。(3) 省察的実践に関する研究者からのスーパーバイズを受けながら繰り返し検討し、メンバーチェックングを実施することで研究の真実性を確保した。

以上の過程において、申請者自身が省察的に研究を進めることができるよう、省察的実践に関する研究者スーパーバイズを受け、研究計画や方向性を適宜修正しながら進めた。

4. 研究成果

看護師は、患者に看護する中で捉えたその人の言動や看護への反応から、患者が自らの意思に基づき何を感じ考えた結果として、その人の言動や反応が表れているのかを常に慮ることで、患者の意思を受けとめ尊重し、看護しようと試みていた。看護師の実践には、専門職が講じた手立てを組み合わせた中で現象を理解し、問題を解決し、機会を利用する(Schön, D. 1983/2007)のと同様に、自らの感覚を手がかりに試行錯誤しつつ手立てを見出し患者の状況を捉え直すことで、目には見えない患者の意思を捉えるという特徴があることが明らかとなった。

また、看護実践においては、看護師が自らの感覚を受け止めることで行為が生まれ、その行為によって知覚した事象に立ち返りながらまた次の行為が見出されることも明らかとなった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

| | |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名 岡本朋子, 村田晶子 | 4. 巻 58 (12) |
| 2. 論文標題 シヨーンの探究に誘われて - 協働探究の試み - 事例1学生がピンとくるイメージを伝えるわざを磨く | 5. 発行年 2017年 |
| 3. 雑誌名 看護教育 | 6. 最初と最後の頁 994-997 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://doi.org/10.11477/mf.1663200879 | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名 岡本朋子 | 4. 巻 61 (4) |
| 2. 論文標題 若手教員が教育実践を省察する試み 「実習振り返りノート」の活用 | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 看護教育 | 6. 最初と最後の頁 314-320 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://doi.org/10.11477/mf.1663201462 | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

| |
|--|
| 1. 発表者名 岡本朋子, 前川幸子, 井上加奈子, 薄井嘉子 |
| 2. 発表標題 C看護師の患者の意思を尊重する看護における省察的実践プロセスの様相の特徴—Schon, D.の省察的実践論を通して（その6）— |
| 3. 学会等名 日本教師学学会 第20回大会 |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 岡本朋子, 前川幸子 |
| 2. 発表標題 A看護師の感覚・行為・思考を通じた看護実践のプロセス |
| 3. 学会等名 国際カンファレンス ‘わざ’はいかに学べるか 学校教育と看護教育の場から |
| 4. 発表年 2019年 |

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|---------------|-------------------------------|-----------------------|----|
| 研究 協力 者 | 前川 幸子 (Maekawa Yukiko) | | |